

## 臨床研究「膵癌肝転移と肺転移における癌関連遺伝子発現の比較検討」

筑波大学附属病院消化器外科では、癌の転移に関わる因子を探索するために、標題の臨床研究を行っております。本研究の概要は以下の通りです。

### ① 研究の目的

膵癌について、肝単独の転移症例と、肺単独の転移症例を比較すると、肺転移症例の方が予後が良いとする報告があり、転移の場所によって腫瘍の特徴が異なることが予想されています。しかし、肝転移と肺転移について、腫瘍の性質として何がどのように違うのかを調べた報告はほとんどありません。本研究では、膵癌の肺転移と肝転移の遺伝子発現（これは腫瘍の性質を反映しています）を比べることと、その遺伝子発現の違いが治療経過や予後にどのくらい関連があるのかを調べることを目的としています。

### ② 研究対象者

2004年4月1日から2019年9月1日までの期間に当院で膵癌の肝転移もしくは肺転移に対して切除が行われた患者さんを対象としています。

### ③ 研究期間：

倫理委員会承認後～2021年3月31日を予定しています。

### ④ 研究の方法

患者さんの切除した組織のうち、使用されなかった部分は、病院で保存されています。本研究では、当院に保存されている癌の切除組織から mRNA（どの様なたんぱく質を作るかという情報）を取り出して、癌に関連する mRNA の量（＝遺伝子発現）を解析します。また、診療録から、患者さんの癌治療に関する診療情報を取り出します。これらの情報をもとに、肺転移症例と肝転移症例を比較します。

### ⑤ 試料・情報の項目

本研究では、下記のような遺伝子発現情報と、臨床的情報を取り扱います。これらの情報は、研究番号を付けることによって個人が特定できない形にしてから研究に使用します。また、カルテ番号と研究番号の対応表は、これらの情報とは別々に保管いたします。（プライバシーを守るための連結可能匿名化という手法です。）

#### ・遺伝子発現情報

臨床切除した膵癌（肝転移もしくは肺転移症例）から抽出・解析した癌関連の遺伝子発現の情報

・臨床的情報

患者さんの背景（既往症）、病理診断、病期、術後治療内容、治療経過など

なお、これらの遺伝子発現などの情報や検体は、膵癌の情報として貴重であり、今後10年間保存し、二次的に利用ができるような体制をとります。ただし、二次利用を行う場合には、別途倫理委員会の許可を得た上で、患者さんにも情報公開を行うことを条件としています。

⑥ 試料・情報の第三者への提供について

この研究は筑波大学のみで実施いたします。他の施設に情報を提供することはありません。

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

情報管理責任者：筑波大学消化器外科 病院助教 古屋欽司

⑧ 研究機関名および研究責任者名

研究機関：筑波大学

研究責任者：筑波大学消化器外科 教授 小田竜也

⑨ 本研究への参加を希望されない場合

本研究の対象に該当する患者さんやそのご家族（ご遺族）の方で、本研究への参加を希望されない場合には、下記問い合わせ先にご連絡ください。その場合には、その患者さんの情報や検体はすべて破棄いたします。すでに研究結果が公表されている場合にはご希望に添えない場合もございますが、研究結果も個人が特定されるようなデータを含むものではありません。

⑩ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院： 305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：消化器外科 古屋欽司

電話：029-853-3221（平日9時～17時）

（消化器外科秘書につながりますので、担当者呼び出してください。）